No.42 2023/2/15
レジオン・ヴィヴィ ―地域で暮らす―
Region Vivir
発行者：社会福祉法人県央福祉会
発行所：神奈川県大和市柳橋5-3-1
URL：http://www.tomoni.or.jp/
発行責任者：柴田　琢
編集責任者：平山正友
印　刷：ワークス桜舎

Region Vivirは、スペイン語で地域で暮らすという意味です。これからは障がいがあっても地域で豊かに暮らす時代だと思います。

県央福祉会～100年法人を目指して～

レジオンヴィヴィ 42 号では、「県央福祉会～ 100 年法人を目指して～」をテーマに、昨年６月に就任した柴田琢理事長はじめ、佐瀬睦夫相談役（２代目理事長）、柴田保顧問（初代理事長）、小川肇後援会会長より、これからの県央福祉会や職員に対する期待や展望などについて、メッセージを発信していただきました。

３代目理事長として

社会福祉法人　県央福祉会　理事長　柴田　琢

はじめに

「これからの福祉には経営が必要だ」――。前理事長直轄の下で、2016 年、森川塾がスタートしました。森川塾は県央福祉会では「次世代経営管理者育成塾」と位置づけられ、メンバーはこれからを担う 40 代を中心に集められました。日中に開催された月２回の塾は、メンバーが各自多忙な業務を調整して時間をつくり最優先で参加しなさいとのお達しでした。７年間に森川塾で学んだ職員は 40 名ほどにのぼります。今では多くの職員が中核として組織を支えています。

経営など机上でしか学んだことはなく、生きた経営を学ぶなど初めてのことでした。まずは何から学ぶのか緊張していた中で、森川先生から最初に教わったことは、経営幹部としての品格と美意識、立ち居振る舞いでした。経営学では話題の経営事例が取り上げられました。昨年はエドモンドソンの「心理的安全性」や稲盛経営哲学がテーマになっていました。

私は、昨年塾が解散するまで約７年の間、幸運にも理事長に就任するまで学ばせていただきました。経営など意識することのなかった自分にとって、大きな糧になりました。さらに、良き学友もたくさんでき、先生のみならずメンバーと学ばせていただいた法人には感謝してい

森川塾のメンバーとともに。
前列右から2番目が森川先生

目次

● ３代目理事長として（理事長　柴田　琢）……1
● 今、県央福祉会に求められることとは！～偉人・経営者の実践から～（相談役　佐瀬睦夫）……3
● 法人理念の実現を目指して（顧問　柴田　保）……5
● 有為な事業の推進に期待（後援会会長　小川　肇）……5
● 2021年度社会福祉法人県央福祉会決算……6
● 新施設紹介・2022年度助成金受給・編集後記……8

ます。

※森川塾…森川弘文先生（森川経営コンサルティング事務所代表・経営学博士）が主催、福祉経営管理者としての底上げを図り、法人の発展に寄与する人材を育成するため、福祉経営の基礎知識や経営管理者に必要な歴史、哲学、文化などの一般教養を指導。

経営の神様との出会いを夢見て

経営の神様と崇められている方は、世にはたくさんいます。故人になられた後も著書は残り、その哲学は受け継がれていきます。私は生きた経営の神様にお会いしてみたいと、ずっと思い描いていました。その中でも、私が最も会ってみたかった稲盛和夫氏が昨年８月にお亡くなりになられました。まさに稲盛氏に手紙を書こうと思っていた矢先でした。手紙を書いても会ってもらえる可能性は皆無だったでしょう。しかし、元メジャーリーガーの「鈴木一朗」氏が電撃的に学校訪問したニュースのように、無名な私にも言葉の力で会えるチャンスがあるかもしれないという、ほのかな思いもありました。

私がお会いして何をしたかったのか、ただ言えることは稲盛氏のオーラを直接肌で“感じて”みたかったということです。稲盛氏の著書は私の本棚にたくさん並んでいます。哲学や思想は伝わってきます。肉声や映像もたくさん残っています。しかし、直に会わなければ伝わらない何かを求めていたのかもしれません。今となっては夢見ることもできなくなりました。

時勢に合わせ理念を見直すことも必要

全国には２万を超える社会福祉法人があります。今回のテーマである「100 年法人」を目指している法人も当然多いことでしょう。しかし、それを成し遂げることは並大抵のことではないと感じています。

私が以前勤めていた社会福祉法人は、1896年にその前身が発足した、まさに“100 年法人”でした。創設者の遺志と理念を継ぎ、子に、孫にと脈々と受け継がれ現在に至っています。それはとても素晴らしいことであり、設立当初からの理念が継承されている証ではないでしょうか。理念とはそれだけで法人を表すものであり、核になる部分です。私自身も以前法人を立ち上げようとした際、一番に考えたのは理念でした。最初に考えた者にとっては、その志と想い、そして深い愛情は何物にも代えがたい分身です。

しかし、それが代々受け継がれる中で、必ず薄れてくるのではないかと感じています。一族であれば幼いころから言い聞かされる中で、代々の意志を自然と自分のものにしていけるかもしれません。

昨今、同族経営はダメだと耳にする機会も多いですが、私は、同族であろうが、県央福祉会のように全く血縁関係のない者が、法人を率いようが、100 年法人を目指すには関係ないと思います。それは、理念についても同じです。理念の継承はとても素晴らしく、代々引き継がれることで息の長い法人になることもあるでしょう。しかし、新しい経営者が時勢に合わせて変えていくことも、必要なのではないでしょうか。理念は不変ではなく、残すものと、変えていくものの調和がこれからの法人には必要だと考えています。

１００年法人の難しさを感じた出来事

私の実家は江戸時代から続く魚問屋（後に株式化して魚市場へと発展）でした。家系図を遡って数えてみると私が 16 ～７代目になります。

当然今までの話の流れからすると、「祖父から父に、父から私にと脈々とその遺志（理念）が受け継がれ」と書きたいところですが、残念、株式会社の魚市場の理念など一度も見たことはありません。

実家の玄関には今でも
当時の名残がある。
上の写真は玄関の外側からみたもの

結局父からも継がなくていいとのお墨付きもあり、私は江戸時代から続いた家業には就きませんでした。その株式会社の魚市場も、つい先日母から、ここ１～２年の間で廃業したと聞かされました。私の思い出の場所は今や跡形もなく更地になっているようです。天国の祖父や父はどのような思いでそれを見ているのか、改めて100年法人の難しさを感じた出来事でした。

経営の安定化を第一に考える

県央福祉会は産声を上げてから約半世紀、法人格を取得してからは40年超となります。1/31現在、従業員数1,804人（非常勤含む）、事業所数131の規模になっています。偉大な初代、法人を神奈川県に県央福祉会ありとまで名を轟かせた２代目、今度は私がそれを受け継ぐ３代目となります。会社は３代で潰すとよく言われますが、年を重ねればそれだけ倒産するリスクは増えます。

過去５年を振り返ると、30近くの新規事業所が開設され、まだ軌道に乗っていない事業が約半数もあります。これからの私の役目は、第一に「県央福祉会を沈没させないこと」、第二に「利用者さんが安全に、そして職員が安心して働ける場所とすること」、最後に「法人を発展させること」――この順番でシフトをチェンジしていくことにあります。言い換えれば、経営を安定化させ、職員を育成し、その上で事業を拡大していくということです。

そのためにはしばし、法人理念である「先駆的で開拓的な事業展開」に蓋をします。先を急いだ規模拡大は赤字事業所を増やし、経営を悪化させました。先駆的で開拓的な事業が成功するためには、立地や家賃、ニーズ、人材確保など法人内で十分に議論し検討する必要があります。さらに、これからは手続を透明にするとともに、結果を検証していきます。

そして新しいモットーとして「明るく・楽しく・元気に」を取り入れます。当然代償も痛みも伴います。しかし、100年法人を本気で目指すならば越えなければならない大きな壁です。理念に惹かれ県央福祉会に入職を決めた職員も多いことは分かっていますが、今はグッとこらえ、力を蓄えていく時だと信じてついてきてください。県央福祉会を次のステージに押し上げることは私一人ではできません。みんなで力を合わせて、まずは３年計画で経営を正常に戻します。その３年後に職員全員が夢のある法人になったことを笑顔で迎えましょう。

今、県央福祉会に求められることとは！

～偉人・経営者の実践から～

社会福祉法人　県央福祉会　相談役　佐瀬睦夫
（２代目理事長）

二宮尊徳・顔回の功績

先日、参議院議員で前神奈川県知事の松沢成文氏より、自身の著書『教養として知っておきたい二宮尊徳』（ＰＨＰ新書）をいただきました。この本の冒頭“忘れ去られてしまった「二宮尊徳」”の一文に、内村鑑三の『代表的日本人』（岩波文庫）から引用した文章が載っています。

「19世紀のはじめ、日本農業は、実に悲惨な状況にありました。200年の長期にわたってつづいた泰平の世は、あらゆる階層を問わず人々の間に贅沢と散財の風をもたらしました。怠惰な心が生じ、その直接の被害を受けたのは耕地でありました」

怠惰な心による農地の荒廃、治水対策の遅れによる農作物の生産量の極端な減少により、人々の暮らしは苦しいものとなりました。徳川家康は、為政者による骨肉の争いをなくし安定した社会をつくれば人々の暮らしが豊かになると信じ、徳川幕府を堅牢なものにしたのです。しかし、安定した社会は必ずしも豊かな社会に通ずるわけではなかったのです。

尊徳の功績でもある、荒廃した農村を救うために実践した改革手法は報徳思想・報徳仕法と言われ、これには以下の６つのキーワードがあ

ると同書に書かれています。
①「至誠（しせい）」（まごころを尽くすこと）
②「勤労」（物事をよく観察し、認識し、それをもとに知恵を磨きつつ働くこと）
③「分度（ぶんど）」（自分のおかれた立場や状況をわきまえ、それにふさわしい生活を送ること）
④「推譲（すいじょう）」（分度を守り、勤勉に働き、その結果として生じた果実を積み重ね、やがて生じる余剰を、「家族や子孫のために蓄えたり（自譲）、他人や社会のために譲ったり（他譲）すること」によって「人間らしい幸福な社会が誕生する」）
⑤「積小為大（せきしょういだい）」（小さな蓄積の累積がやがては大きな収穫や発展に結びつくということ）
⑥「一円融合（いちえんゆうごう）」（すべてのものは互いに働きあい、一体となって結果をもたらすこと）

もう一人、孔子の一番弟子である顔回（がんかい）という人のエピソードを紹介します。顔回は弟子のなかで随一の秀才で、その将来を嘱望されましたが、孔子に先立って早逝（そうせい）しました。顔回は名誉栄達を求めず、ひたすら孔子の教えを理解し実践したそうです。「わずか一杯の飯と汁だけの食事をとり、狭くてみすぼらしい家に住んだ」といいます。

尊徳と顔回の二人に共通するのは、いつも緊張感と使命感を持って仕事に励み、自分の身の丈に合った生活をしたことです。彼らの実践は、時代を超えた現代でも私たちの仕事や生活に大いに参考になるのではないでしょうか。

明るい心・感謝の心・親身の心

雑誌「介護ビジョン」2022年11月号（日本医療企画）に掲載されている、十川正啓（とかわまさひろ）さん（有限会社メディカルマーチン代表取締役。50歳）の記事を紹介します。十川代表の仕事への姿勢は、福祉・介護の現場で働く職員の参考になります。

「（中略）訪問介護・訪問入浴介護からスタートし、『何でもやります』と言って回ったのですが、最初は他所がやりたがらない早朝・深夜の仕事ばかり。でも、それをきっちりとこなしていくうちに、少しずつ信頼してもらえるようになり、“メディカルマーチンに頼めば何でもやってくれる”という評判を得るようになりました」

「“人間の尊厳を大切にし、明るい心・感謝の心・親身の心でサポートします”という理念をもとに経営しています。（中略）サービスを提供するとき、どんなに疲れていても明るく笑顔で接しよう。ありがとうございますという気持ちを忘れずに仕事に取り組もう。そして親の身になってお客様を見守ろう――という気持ちを言葉にしたものです」

福祉・介護を人々の憧れの職業へ

県央福祉会が発足して50年（社会福祉法人としての認可前1975年7月に「子どもの生活相談室」として発足）が経とうとしています。約半世紀の道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

この50年で福祉・介護業界の給料や処遇は大きく変わりました。県央福祉会の常勤職員の平均年収は479万円（2020年度実績）と、国民の正規雇用の平均年収496万円とわずかな差になっています。

しかし、日本の給与水準は、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）加盟国の中では、2021年は38か国中24位と低く、韓国に抜かれ、中東欧のスロベニア・リトアニアより低くなっています。その一方、日本の大手企業の内部留保金は総額500兆円以上もあると言われています。

私は、かねてから介護・福祉職は、ステイタス（社会的評価）があり、プライド（誇り）を持てる、無くてはならない職業になって然るべきと言ってきました。県央福祉会の職員一人ひとりが、自らの仕事にプライドを持ち、ステイタスを高める努力を続け、福祉・介護を人々が憧れるような職業にして育ってほしいと願っています。

参考文献
『教養として知っておきたい二宮尊徳』（ＰＨＰ新書）
「介護ビジョン」2022年11月号（日本医療企画）

法人理念の実現を目指して

社会福祉法人　県央福祉会　顧問　柴田　保
（初代理事長）

ふきのとう舎が 1983 年に発足してから 39 年の歳月が流れ、法人も世代交代となり新体制の執行部となりました。

発足当時は、１法人１施設で運営は大変厳しく運営費の確保で大変な苦労がありましたが、法人後援会の主催で利用者さんとその家族が一緒になって「バザーまつり」を開催し、地域の皆さんの協力を得ながら収益を得てきました。また、「チャリティ音楽会」ではチケットの販売を行い、「チャリティゴルフ大会」では大和市内のロータリークラブ会員の皆様に協力していただきながらチャリティを行い、法人運営を行ってまいりました。

こんな中でも法人の理念であります「ノーマライゼーション」を掲げて利用者さんを中心に置いた運営を行ってきました。今では「ソーシャル・インクルージョン（共生社会）」を目指して運営を行っていますが、当時は利用者さんとその家族の要望を取り入れたりしながら、施設を増やし規模を拡大することで運営も安定してきました。

理事長職を辞任してから数十年で法人の規模は急激に拡大してきたように思われますが、拡大に見合った人材確保と育成は問題がなかったか憂慮しています。これからは発展的に整理統合を行い、他の法人でできることは整理するなど法人のスリム化も必要ではないかと思います。また、保育園事業では少子化が進み幼児の獲得競争が発生するかもしれません。保育事業をいたずら拡大させるのではなく、現在利用している障がい者の高齢化対策を考えるべき時が来たのではないか、今後はその時代に合った法人運営を行ってほしいと思います。

有為な事業の推進に期待

社会福祉法人　県央福祉会後援会　会長　小川　肇

県央福祉会が 1982 年 12 月に法人認可を得て、翌 83 年４月１日に授産施設「ふきのとう舎」が開設されました。その２年後に県央福祉会のすこしでも力になろうと、「父親の会」が活動を始めました。その後、県央福祉会の利用者増員がなされるとともに必然的に施設の拡大が進みました。県央福祉会が必要とする物品等の補助事業を推進するため、後援会は職員の皆様の協力を得て、バザー大会やゴルフ大会を開催し、会の資金調達を進めてまいりました。

現在までに、県央福祉会は 13 市に施設の展開がなされました。その間、福祉制度の在り方に大きな改革が行われ、措置制度から支援費制度、さらに障害者自立支援法、障害者総合支援法と制度の変更があり、職員の皆様には多くの労苦があったものと推察します。今後も後援会は、県央福祉会への協力を惜しむことなく続けていきます。

2014 年に NPO 法人成年後見センター「かけはし」が発足しました。これは、知的障がいや精神障がいのある方、ご高齢者、判断希薄な方への支援を通じて自己決定を尊重し意思疎通支援を行い、判断能力の不十分な方々が、自分らしい生活を獲得するための事業を展開しています。この NPO 法人成年後見センター「かけはし」を後援会は支援しており、今後もこの事業への協力を惜しみません。

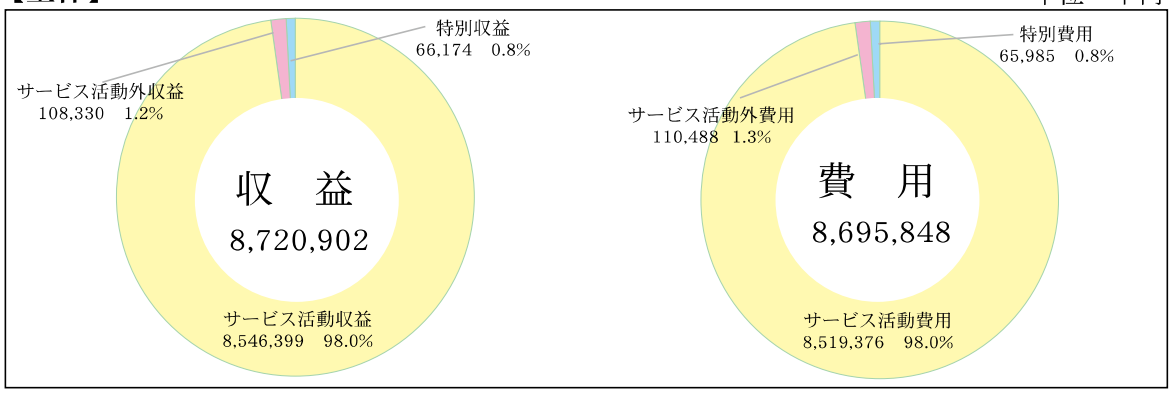
最後になりましたが、組織拡大・発展そして数々の労苦があったはずの起点をなした佐瀬睦夫前理事長に、後援会は感謝・お礼を申し上げます。また、新しく就任された柴田琢理事長には有為な事業の推進を図っていただけるよう、お願い申し上げます。後援会は今後とも県央福祉会がかかわる事業に協力を惜しむことはありません。

どうぞ各位にはなお一層のご厚誼のほど、お願い申し上げます。

２０２１年度（令和３年度）
社会福祉法人県央福祉会事業活動計算書
［令和３年４月１日～令和４年３月３１日］

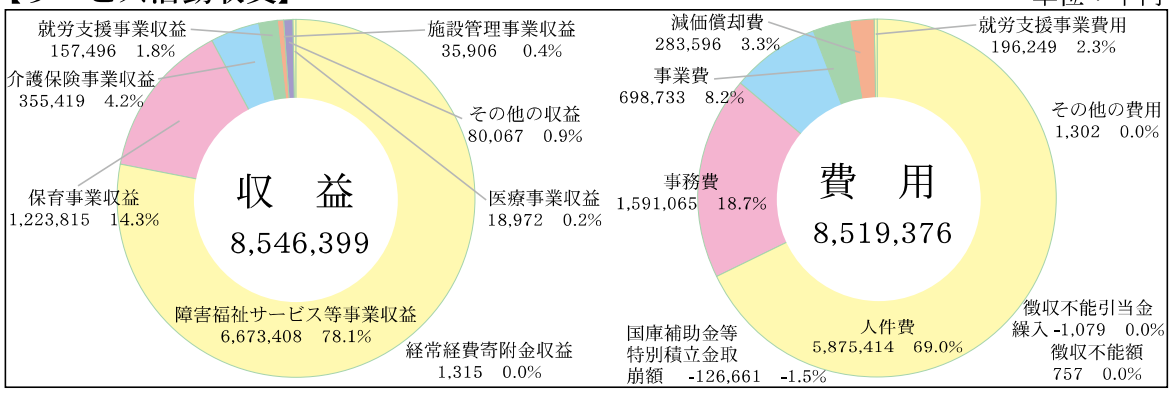
【全体】

単位：千円



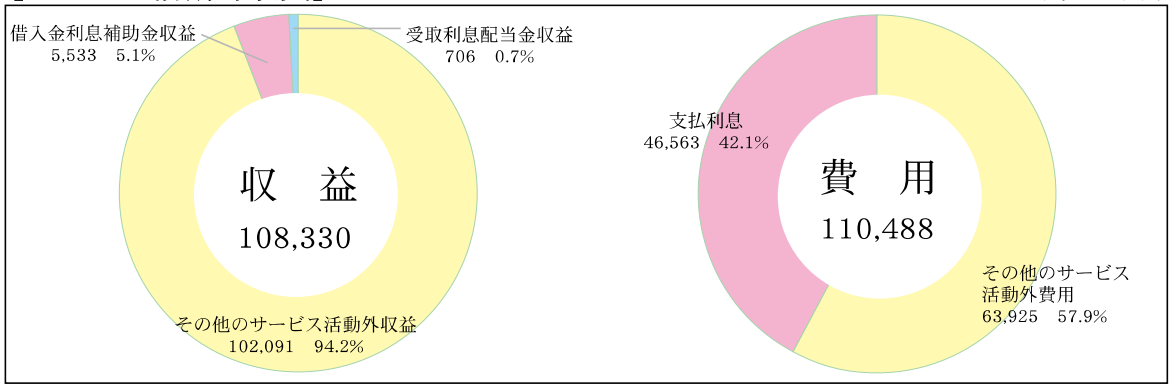
【サービス活動収支】

単位：千円



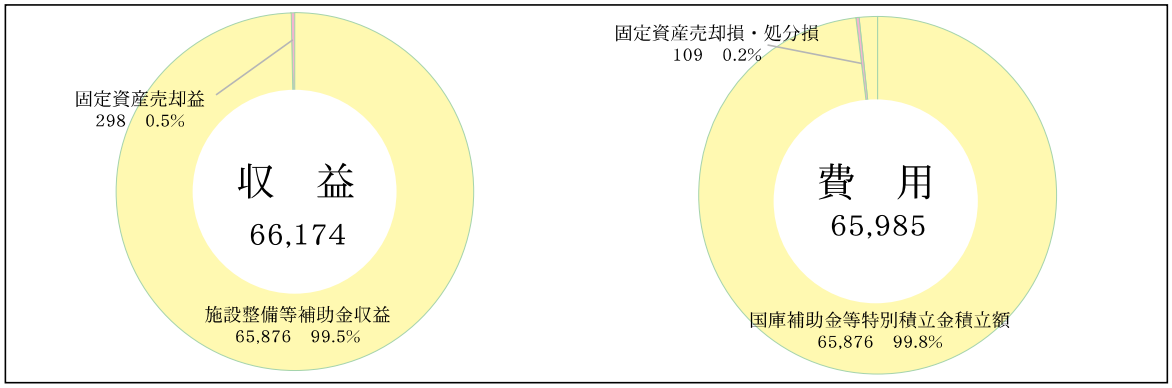
【サービス活動外収支】

単位：千円



【特別収支】

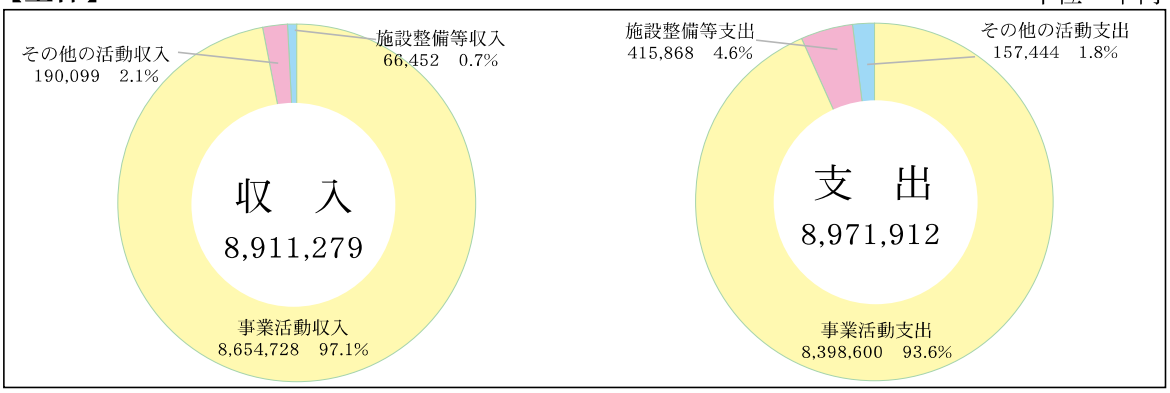
単位：千円



２０２１年度（令和３年度）
社会福祉法人県央福祉会資金収支計算書
［令和３年４月１日～令和４年３月31日］

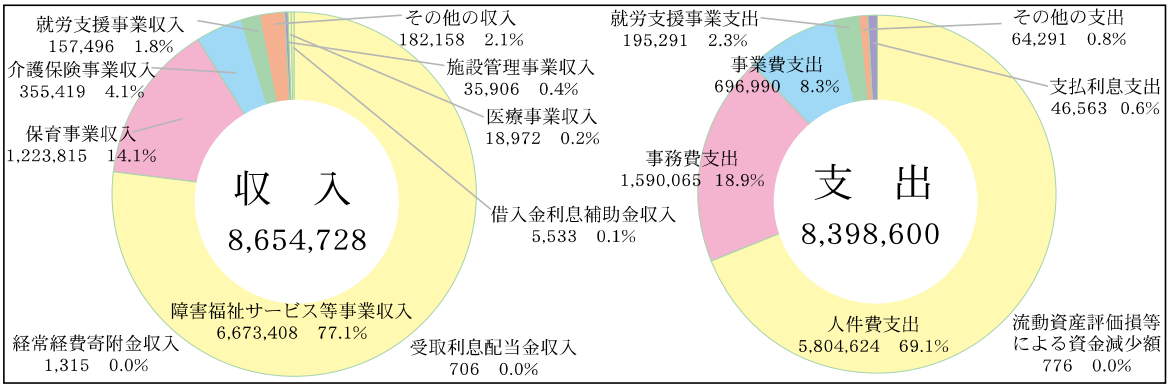
【全体】

単位：千円



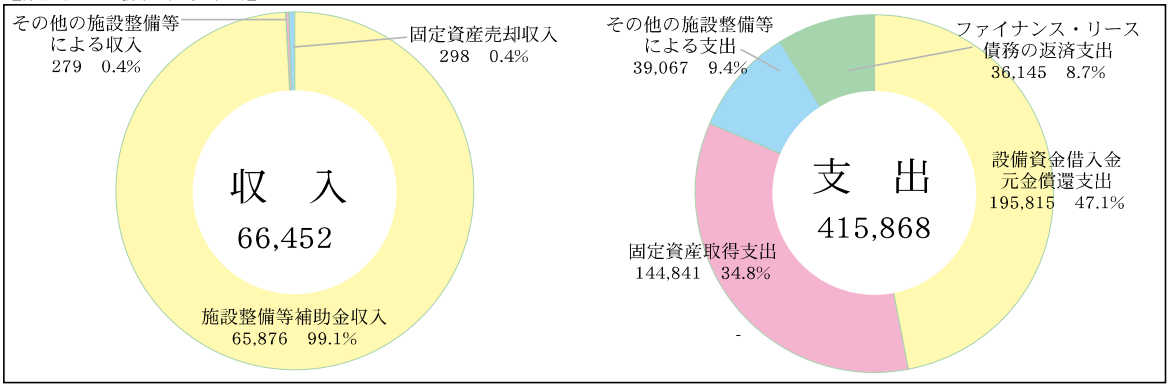
【事業活動収支】

単位：千円



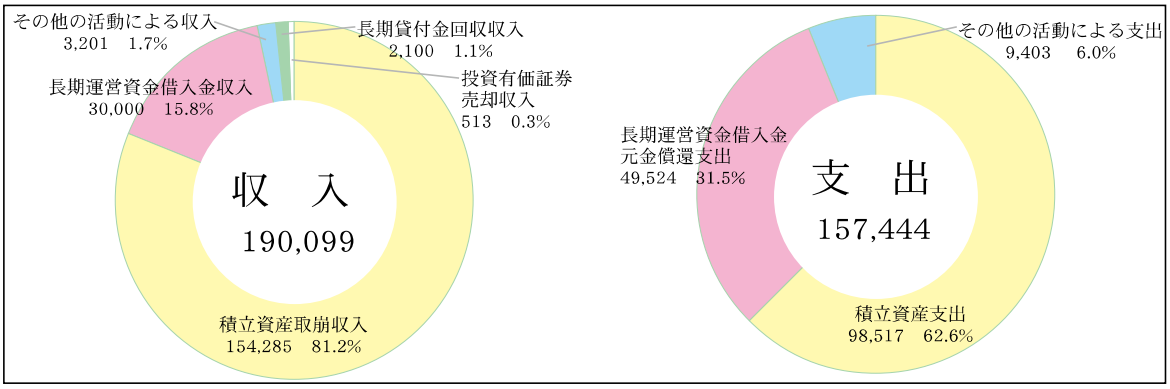
【施設整備等収支】

単位：千円



【その他の活動収支】

単位：千円



新

●アクトかにがや（川崎市）

設置日：2022年4月1日
事業内容：生活介護
住所：〒213-0026　神奈川県川崎市高津区久末1776-1
TEL：044-789-5420　FAX：044-789-5421

施

● 地域相談支援センター　ワルツ（川崎市）

設置日：2022年4月1日
事業内容：相談支援事業（川崎市委託事業）・
　　特定相談・一般相談（地域移行）
住所：〒211-0053　川崎市中原区上小田中6-42-12 コーポ紙屋202
TEL：044-819-6657　FAX：044-819-6658

設

● 県央ダイニングセンター（海老名市）

設置日：2022年5月1日
事業内容：就労継続支援A型
住所：〒243-0437　神奈川県海老名市泉1−4−17
TEL：046-204-4661　FAX：046-204-4663

紹

● レアーレ原当麻（相模原市）

設置日：2022年9月1日
事業内容：共同生活援助
住所：〒252-0335　神奈川県相模原市南区下溝525-4
TEL：042-711-4144　FAX：042-711-4146

介

2022年度助成金受給

ふきのとう向生舎（大和市）

助成品目　車両　日産キャラバン
助成団体　共同募金会

　この度は、赤い羽根共同募金にて助成金を賜り、日産キャラバンを購入させて頂きました。誠にありがとうございます。
新しい送迎車はバックモニター、ドライブレコーダー、昇降時ステップも完備しおり、安全性も高く利用者さんも乗り降りしやすい車です。ありがとうございました。

パステルファーム ワーキングセンター（相模原市）

助成品目　煎餅焼き機、煎餅乾燥機
助成団体　共同募金会

　この度は、煎餅焼き機、煎餅乾燥機の購入に際し、助成を賜り誠にありがとうございました。
利用者さんが美味しいお煎餅を焼いて、お客様に喜んで頂ける事と思います。ありがとうございました。

編集後記

2023年は癸卯（みずのと・う）、「癸」は一つの循環が終わり、新たな循環が始まる準備の整った状態、「卯」は春の到来、飛躍の時期を指すそうです。この一年は、これまで撒いた種が芽吹き、再び勢いよく成長するためのキッカケを掴み取りたいものです。
（平山　正友）

編集委員
上九沢デイサービス　平山　正友
法　人　本　部　高松　修一
法　人　本　部　青木　　久
法　人　本　部　青井　志郎
法　人　本　部　守家　麻美
福祉創造スクウェア・すぷら　塩原賢一郎
かたくりの里　工藤　裕介